

＜株式会社エフエム東京 第359回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：平成21年6月9日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数7名（社外7名 社内0名）
 - ◇出席予定委員（6名）

青 池 慎 一 副委員長	内 木 文 英 委員
渡 辺 貞 夫 委員	横 森 美奈子 委員
内 館 牧 子 委員	香 山 リ カ 委員
 - ◇欠席委員（1名）

子 安 美知子 委員長

4. 議題

【番組名】 TOKYO FM ヒューマンコンシャススペシャル

「のり子 13歳の選択～The yellow Center Line」ダイジェスト版

【放送日時】 2009年5月28日（木） 19:00～19:55 放送分

【番組の背景】

フィリピン人のカルデロン一家は埼玉県蕨市に暮らしていた。父親は内装解体会社勤務で後輩に仕事を教える立場にあった。母親は専業主婦。娘ののり子はプロのダンサーを夢見て、クラブ活動ではNHKの合唱コンクール出場を目指す中学生だ。

両親は90年代前半にそれぞれ偽造旅券で入国した。のり子が小学5年生のとき、06年に母親が不法入国で逮捕され、執行猶予付きの有罪となった。08年9月には一家の国外退去処分が確定した。処分が確定してからも、家族の事情や人道的配慮から滞在を認める在留特別許可制度を彼らは求めたが駄目だった。

一見、法務省の論理には曇りがない。そして「近所の親類に預けることを前提に、長女だけに在留許可を出し、両親が会いにくる時は再入国を認める」との法相裁定が下された。

「両親と帰国するのか、ひとりで日本に残るのか」13歳の女の子に日本という国家が選択を迫る結果になった一。

<第359回放送番組審議会議事録>

【番組内容】

カルデロン一家の残留を求める嘆願書は2万人集まった。地元蕨市議会も「長女の成長と学習を保障する見地から一家の在留特別許可を求める」との意見書を全会一致で採択した。カルデロン一家は20年近く日本で暮らし、すでに地域社会を構成する隣人として認められ、職場や地域に十分に貢献している。日本に不法に残留する外国人は11万人と言われている。日本社会に溶け込み、今さら帰国しても生計が立たない人も多い。日本社会も外国人が大きな担い手となっている。「外国人とともに生きる」時代になっている。

横浜からフィリピンに家族と強制送還された少女の例がある。

彼女も日本で生まれ育ち、日本語しか話せない。言葉の壁と貧困に晒されている。彼女の兄は体調を崩し、罪のない子供が「異国のような母国」に送還され、悲惨な状況に置かれている。

確かに不法入国や不法滞在は犯罪に結びつきやすい面があり、欧州各国は規制や取締りを強めている。しかし、そこに一律の排除という考えはなく、不法滞在でも地域社会に馴染み、平穏に過ごして子供を育てている場合は柔軟に対応している例もある。

不法入国の取締りと例外との兼ね合い。前例重視と運用の改善のせめぎあい。情緒的なものと法の運用は別物だという意見。人権的な視点から柔軟な判断が必要ではないかという意見。在留特別措置に明確な基準がなく、そのときどきの法務大臣の判断に委ねられているのが現実だ。

番組は法と人権の狭間に揺れるカロデロンのり子の日常を追い、外務省、法律家、アムネスティインターナショナル日本、街頭や地域の人々など、幅広い視点から取材を続け、「ひとりで日本に残る」とした13歳の女の子の選択の「意味」と「理由」を探り、ひとりの少女の選択が、今の日本の現状の何を象徴しているのかを考える。

< 試聴時間：約20分 >

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 非常に扱い方が難しい問題で、中立的な立場で放送することの難しさを感じた。平日の通常はワイド番組を放送している時間帯に放送したことで、リスナーはどう感じたのかも気になった。リスナーに心構えをもって聴いてもらえるような工夫、こうした番組にも耳を傾けてもらえるような工夫ができるとよいと思った。

＜第359回放送番組審議会議事録＞

- 賛成反対とは言い切れない難しい問題を取り上げている。番組としての視点は聴取者にゆだねている分、少々物足りない部分もあった。色々と考えさせられてしまうという点ではよかったと思う。
- 違法滞在は悪いことである一方、親子の情愛などが報道され、どういう決着がよかったのかと考えさせられた。のり子ちゃんの友達である子供たちの日常の声を多く取り上げていたが、若干意味不鮮明なところがあった。取り上げるには非常に難しい問題だと感じたと同時に、そのような問題を取り上げたことには勇気を感じる。
- フィリピン少女が日本を祖国のように愛しているという雰囲気は伝わったが、法か情緒かという両極なものを扱うにしては、情に寄り過ぎている。家族全員帰国すべきという考えの人の声も出すべきだったと思う。また、「日本人の普通の子供たちと同じように人生を歩んできたのに…」とナレーションにあったが、親が法を冒している点で同じではなく、情の部分を助長している感じがした。
- “のり子の選択”としているなら、もっと彼女の選択にスポットをあてるべきではなかったか。彼女が何に悩み、どう考えて、人生の選択をしたのか—をもっと追及するのが、この番組にあるべき視点ではなかったかと思う。
- 放送の完全版では、のりこちゃんの気持ちにスポットあてている。制度論とは違った、一人の少女の人生の選択という視点でこの問題をとりあげた。
- リスナーの理解を深めるために、当日の放送告知などは行った。今後もこの問題については問題意識を持って追っていく予定。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「リサ・ステッグマイヤーのクロノス」
7月3日（金） 5：00～8：30 放送
- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き

<第359回放送番組審議会議事録>

③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は7月7日（火）に開催することを決めた。

以 上